

第5章 成果と課題

本研究の成果と課題については、次のとおりである。

(成果)

「判断基準」の設定により、言語活動を通じた「思考・判断・表現」の評価の考え方を明確にすることができた。

思考力・判断力・表現力を育成する確かな指導の考え方が明確なり、併せて評価結果を指導に生かす考え方を示すことができた。

研究協力員による検証授業の実施により理論と実践をつなぐことで、教科等で指導と評価の一体化を図る際の視点や具体的な方法について提示することができた。

(課題)

思考力・判断力・表現力育成の系統的な指導の在り方について研究を進める必要がある。

評価規準や「判断基準」の妥当性を高める取組を進める必要がある。

おわりに

本研究では、各教科等の思考力・判断力・表現力の育成を、評価の面から見直し、学習指導の改善に資するよう理論を構築し検証を進めてきた。研究を進める中で、教科等の目標から評価規準を定め、「判断基準」を設定する一連の流れを踏まえることで、教材研究が確かなものになるとの手応えを感じている。各学校で、思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の工夫・改善に取り組む際の参考にぜひ活用していただきたい。

最後に、本研究を進めるに当たり、実態調査に御協力いただいた各市町村教育委員会や各学校、実践事例を提供していただいた研究協力員の皆様方に心からお礼を申し上げたい。

【引用・参考文献】

- | | | |
|--------------|--|----------------|
| 中央教育審議会 | 『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）』 | 平成20年1月 |
| 中央教育審議会 | 『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』 | 平成22年3月 |
| 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説 総則・各教科等編』 | 平成20年8月 |
| 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説 総則・各教科等編』 | 平成20年9月 |
| 文部科学省 | 『高等学校学習指導要領解説 総則・各教科等編』 | 平成21年11月～22年6月 |
| 文部科学省 | 『小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）』 | 平成22年5月 |
| 国立教育政策研究所 | 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』 | |
| | 『小学校各教科等』 | 平成23年3月 |
| | 『中学校各教科等』 | 平成23年7月 |
| | 『高等学校各教科等』 | 平成24年3月 |
| 鹿児島県教育委員会 | 『鹿児島県教育振興基本計画』 | 平成21年4月 |
| 鹿児島県総合教育センター | 『研究紀要第115号』 | 平成23年3月 |